

令和8年1月13日

報道機関各位

熊 本 大 学

【文書館 R7 年度企画展／水俣病公式確認 70 年記念】
ストーリーズ
塩田武史写真展 ～フィルムからひらく、人びとの物語～

どこか故郷に似た水俣を愛し、水俣病の患者家族とのつきあいを重ね、ようやく人びとにカメラを向けた写真家・塩田武史（1945～2014）。本展では、武史さんが生前公開した写真、遺族である妻・塩田弘美さんや写真家仲間の語り、一般社団法人「水俣・写真家の眼」の活動、弘美さんと当館が協働して作成したネガフィルム・データベースを活用して新たに見つかった未公開写真から、武史さんが生涯大切にしていた水俣のイメージをみつめます。そこには、人びとの日常の表情、土地の暮らしや記憶の細部が映し出されています。

会期中に、塩田弘美さんを案内人とするギャラリートークと、写真と物語に関するトークイベントを開催します。展示とあわせてぜひご参加ください。

広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材方、よろしくお願いいたします。

記

【会 期】令和8年2月4日（水）～2月21日（土）

【会館時間】10:00～16:00 最終入場 15:30

【会 場】熊本大学五高記念館

【対 象】一般の方（興味がある方はどなたでも）

【観 覧 料】無料、申込不要（ギャラリートーク、イベントも同様）

【ギャラリートーク】案内人：塩田弘美、香室結美

・日時：令和8年2月8日（日）14:00～14:30 会場：熊本大学五高記念館

【トークイベント】「写真は語る？ 写真との対話と物語のはじまり」

・日時：令和8年2月8日（日）15:00～17:00 受付 14:30～

・会場：熊本大学黒髪北地区文学部本館 1 階くまトヨ講義室

・登壇者：塩田弘美、香室結美、横谷奈歩、真島一郎 / 司会：下田健太郎

【主 催】熊本大学文書館 【後 援】熊本県

【協 力】熊本大学キャンパスミュージアム推進機構、一般社団法人 水俣・写真家の眼、JSPS 科研費基盤研究（A）JP22H00036「21 世紀における他者の痛みの交差性」（代表者：慶田勝彦）、熊本大学大学院人文社会科学部附属国際人文社会科学センター学際的研究資源アーカイブ領域

※詳しくは別紙チラシまたはホームページをご覧ください。

http://archives.kumamoto-u.ac.jp/info/info_20260106.html

【お問い合わせ先】

熊本大学文書館

担当：香室 TEL：096-342-3951

email:archives@jim.kumamoto-u.ac.jp



©Takeshi Shiota

熊本大学文書館R7年度企画展 / 水俣病公式確認70年記念

塩田武史写真展

フィルムからひろく、人びとの物語 ストーリーズ

期間 2026年2月4日(水)～2月21日(土)

10:00～16:00 (最終入場 15:30)

会場 熊本大学五高記念館

入場無料
申込不要

「その頃は何とも思わなかったカットが、
捨てがたいものとして浮かび上がってきた。
一枚一枚の写真が語りかけてくる」
(「僕が写した愛しい水俣」 塩田武史、2008年、iii頁、岩波書店)

ギャラリートーク

日時 2月8日(日)14:00～14:30(塩田弘美、香室結美)

会場 熊本大学五高記念館

トークイベント

写真は語る？ 写真との対話と物語のはじまり

日時 2月8日(日)15:00～17:00

会場 熊本大学文法学部本館1階くまトヨ講義室

主催：熊本大学文書館

後援：熊本県

協力：熊本大学キャンパスミュージアム推進機構、一般社団法人 水俣・写真家の眼、

JSPS 科研費基盤研究(A)JP22H00036「21世紀における他者の痛みの交差性」(代表者：慶田勝彦)、

熊本大学大学院人文社会科学部附属国際人文社会科学センター学際的研究資源アーカイブ領域



どこか故郷に似た水俣を愛し、患者家族とのつきあいを重ね、ようやく人びとにカメラを向けた写真家・塩田武史（1945～2014）。彼はどのような人で、どのようなイメージを残したのでしょうか。

本展では、塩田武史さんが生前公開した写真、遺族である妻・弘美さんや写真家仲間との語り、そしてネガフィルムに収められた未公開写真から、武史さんが生涯大切にしていた水俣のイメージをみつめます。そこには人びとの日常の表情、土地の暮らしや記憶の細部が映し出されています。

展示は二部構成です。第一室では、塩田武史さんが生前公開した写真を展示します。第二室では、弘美さんと当館が協働して作成したネガフィルム・データベースと未公開写真、弘美さんと共に武史さんのアーカイブづくりを進める「水俣・写真家の眼」の活動を紹介します。



©Takeshi Shiota

トークイベント 入場無料、申込不要

写真は語る？ 写真との対話と物語のはじまり

日時 2026年2月8日(日)15:00～17:00 受付 14:30～

会場 熊本大学文学部本館 1階くまトヨ講義室

※同日14:00～14:30、五高記念館にてギャラリートークが開催されます。
あわせてご参加ください。

司会 下田健太郎（熊本大学 准教授）

15:00 開会挨拶 文書館長 高野博嘉（熊本大学 教授）

15:05 塩田弘美・香室結美（熊本大学文書館 特任助教）
「水俣の人と風景―塩田武史のまなざしからひらく物語―」

15:35 横谷奈歩（九州大学 助教・美術家）
「ある美術家による歴史の残し方―小さな声と対話して―」

16:05 コメント 真島一郎（東京外国語大学 教授・文化人類学）

16:25 休憩

16:30 フロアディスカッション

17:00 閉会挨拶



©Takeshi Shiota

問い合わせ

熊本大学文書館

TEL 096-342-3951

email archives@jim-u.ac.jp

HP <http://archives.kumamoto-u.ac.jp/>

トークイベントに関するお問い合わせは、
2月6日(金) 15:00までお願いします。



プロフィール



塩田武史

1945年、香川県生まれ。法政大学在学中にカメラ部所属。新聞報道にふれ、1967年に初めて水俣を訪れる。1970年に水俣市に移住、家族と共に同地で15年間過ごした。週刊『アサヒグラフ』を中心に写真を発表し、1971年銀座ニコソロンで初の個展開催。『塩田武史写真報告 水俣'68-'72 深き淵より』（西日本新聞社、1973）、『僕が写した愛しい水俣』（岩波書店、2008、第30回熊日出版文化賞受賞）。2014年死去。



塩田弘美

熊本市在住。1972年に武史と結婚。水俣で暮らし、三人の子どもが生まれた。水俣病第一次訴訟や自主交渉にも同行。武史と共に患者家族や地域とつきあい、現在も交流を続ける。



横谷奈歩

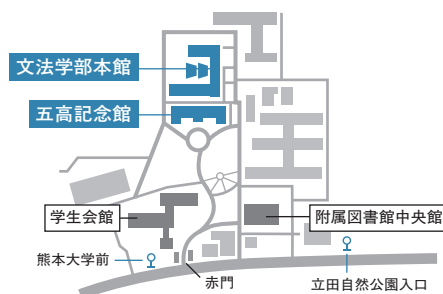
美術家、九州大学芸術工学研究院 助教。国内外にてフィールドワークをしながら、個人の歴史や物語を元に作品制作を行う。近年の主な発表と滞在制作に、「星劇団再演プロジェクト」「高橋家にまつわる物語」（広島県尾道市）、「いにしよによる一断片たちの囁きに、耳を―」（高松市塩江町）、「芸術と考古学―春休みの遺跡―」（杉沢遺跡／伊吹山文化資料館、2019）、「アートとサイエンスのあいだ」（イタリア、ブルキナファソほか2012-2015）等、共編者として『アートと人類学の共創』（水声社、2024）がある。

会場

展示・ギャラリートーク 熊本大学五高記念館

トークイベント 文学部本館 1階くまトヨ講義室

熊本市中央区黒髪2丁目40番1号



大学構内の駐車場は有料です。

(1時間超え4時間以内500円/4時間超え24時間以内1000円)

学内の駐車場所が不足しておりますので、公共交通機関をご利用ください。



©Takeshi Shiota